

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200074		
法人名	社会福祉法人 姫戸福祉会		
事業所名	グループホームひめど		
所在地	熊本県上天草市姫戸町姫浦2544番地6		
自己評価作成日	平成29年2月17日	評価結果市町村受理日	平成29年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5
訪問調査日	平成29年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家が密集する中に事業所があり、近くには商店、学校、郵便局、農協、理美容室など用事を手近に済ます事ができ、地域との交流もしやすい。漁師町で、屋上からは不知火海と島々が見渡せ、近くには桜の名勝地もあり自然も豊かである。また、医療面でも階下が医院で連携も密に行える。運営面では、ISOの認証取得、記録システムの導入、人事考課制度、パソコンやスマートフォンで学ぶ事ができるオンデマンド研修、資格取得に向けた支援体制があり、継続的にサービスの質の改善・向上に繋がられるシステムがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

接遇教育と職員教育と衛生面の管理が徹底しているホームである。接遇面では、日々のミーティングや専門家による研修があり、職員に対しては資格取得を支援し、ケアの質の向上に活かされている。衛生面では、うがい・手洗いを励行しており、掃除も行き届いている。管理者は、利用者のほとんどが「本当は我が家が一番」と思っている人達が入居しているとの認識があり、常にその事を心にとめて、職員と共に日々のケアに努めている。職員は、丁寧な言葉かけや優しい対応で利用者に接しており、リビングは、歌やことば遊び、利用者同志のおしゃべり等で、活気に溢れていた。アットホームな雰囲気があり、利用者一人ひとりが大切に守られている事が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初作成した理念に、その後実践したケアを振り返り作成したものを追加し、誰もが目につくところに掲示している。定期会議でもケアの内容について、具体的な実践につながるように話し合いをしている。	「助け愛・励まし愛・微笑み愛」という三つの「愛」を理念としている。具体的には、地域に出かけ、地域の方々との関わりを持ちながら、ゆっくり、のんびり、いつも笑い声が聞こえるホームでありたいという思いで、利用者と向き合っている。案内パンフレット・エレベーター前・事務室・リビング・職員の名札の裏等、いつでもどこでも、目につく所に理念を提示して、職員への意識付けがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は、民家が密集し商店や学校等があるところに立地し、階下は診療所でもあることから、散歩や買い物に出掛けると地域の方から気軽に声をかけていただいている。また、蛍が舞っている時期や花の見頃等、季節の楽しみも電話をいただき教えていただいている。近所の方からは野菜やお茶菓子の差し入れをいただくこともある。	ホームは街中の医院の2階にあるので、出入りの際には、受診待ちの地域の方々、日常的に自然な交流がある。又、地区敬老会では職員が準備から片付けまで手伝っており、文化祭には利用者の作品を出品している。地区ごとの神社の祭りには、地域の子供たちが巫女姿で神輿を担いでホームを訪問する等、地域とは途切れないつながりが出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護支援センターの職員と連携し、認知症ケアについて話をしたり、悩み等をうかがう会を開催したりした。また、高校の福祉科の実習生の受け入れや認知症サポーター養成講座なども開催し認知症ケアの啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では主に、ケアの在り方に関するご意見をいただくことが多く、日ごろのケアを振り返る良い機会となっている。また、活動内容の報告では良く頑張っていると評価をいただいたり助言をいただくなど職員の励みとなっている。	委員は、行政・地区代表・婦人会・老人会・家族・入居者で構成され、2か月に一度開催されている。活動報告・職員研修・事故報告の他に、毎月の「ヒヤリ・ハット」報告は、些細な事まで会議の場に出されており、委員からの意見やアドバイスが会議録に詳細に記録されている。委員から出された意見は職員間で検討し、ケアに活かされており、その結果も会議で示される等、有意義な運営推進会議となっていることが伺えた。	委員からの意見を取り入れて、事前に「外部評価表」を届けていることで、ホームの運営の内容が伝わり、理解が深まっているものと思われる。今後益々、ホームの資質の向上につながるものと期待できる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当の方は、ほぼ毎回運営推進会議に参加していただき、活動状況や事業所の実情を見ていただき助言をいただくこともある。また、市主催の研修会などにも参加するようにし協力関係が築けるようにしている。	運営推進会議には、毎回、市担当者の出席を得ており、ホームへの理解を促している。又、市からの防災に関するアンケートに答えたり、防災マニュアルを見てもらう等、ホームから積極的に働きかけ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」を全職員へ配布し、法人全体での勉強会がある。転倒・怪我、無断外出など予測されることについて、「ヒヤリ・はっと報告書」等から他部署職員も参加し対応を検討している。また、ご家族へも状況を説明し一緒に考えながら環境整備を行い抑圧感のない暮らしに努めている。スピーチロックについても毎回の会議で議題として取り上げている。	「身体拘束ゼロ」を目指して、法人でもホーム内でも職員研修に力を入れている。自由に動きたいという利用者の思いに応じて、移動の妨げになるものを外したり、職員の目の届く所に部屋を移動させる等、拘束をしない工夫が随所に見られた。又、毎朝、利用者のいるリビングで「接遇ミーティング」を行っており、職員全員で利用者への丁寧で優しい対応について、日々心掛けていることが伺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止学習テキスト」を用い法人全体での勉強会や、市主催の研修会へも参加し学ぶ機会がある。日常的には、不適切なケアがなされないよう、毎日ミニ研修を行い、自身のケアについて振り返る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修会参加や「わかりやすい成年後見制度」のパンフレットを活用し学んでいる。事業所への入退所時に必要と思われる方へは市や社会福祉協議会の担当者へ繋げ説明を行ってもらうなど対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはあらかじめ時間をとっていただき疑問や不安なことが無いかをうかがい説明を行うようにしている。また、介護報酬の改定や制度改正時には説明会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で「利用者満足度アンケート」を年2回実施し、ご家族等の意見をいただくようにしている。直接いただいた意見・苦情も含め、ケアが向上する機会ととらえ、職員全体で改善に努め、経過を報告している。	面会や受診の際、利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くように心がけている。年2回、実施されている「利用者満足度アンケート」は法人宛てとなっており、集計後にはホームに届けられ、結果について全職員で検討し、ケアの質の向上に繋げている。家族にもアンケート結果を報告し、信頼関係の構築に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見・提案が言える場としては毎月の部署会議や年2回の個人面談がある。不満や言い難いこと等については、「職員アンケート」の実施や法人管理者へ直接メールできるアドレスの開示や、意見箱の設置がある。意見・提案などについては、一つ一つについて必ず対応策を提示している。	「接遇改善委員会」のマニュアルを基に毎朝、接遇ミーティングが行われている。毎月の「部署会議」では個別に「〇〇さんについて」現状を伝え、意見を出し合っており、利用者の個々の課題を共有し、ケアの統一が図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課と個人面談により評価を行っている。給与面では、規定に応じた定期昇給、昇格を行いながら、職員の適正等を勘案し定期的な人事異動で職員間の人間関係にも配慮している。また、毎月の「安全衛生委員会」で職場環境や心身の状況などの把握や整備、対応に努め、産業医との面談も年2回確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課や個人面談を通して力量等の把握を行い、「職員研修年間計画」の作成と予算の確保をし研修会の参加や資格取得の支援を行っている。また、介護職員の介護福祉士会への入会金や毎年の年会費の助成、パソコンやスマートフォンを利用し講座が受講できるオンデマンド研修等の体制を築き、継続的に学ぶことへの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の「居宅介護サービス連絡協議会・介護支援専門員連絡協議会」や各団体主催の「多職種連携会議」、県内の「グループホーム関係団体の研修会」への積極的参加を通して、勉強会や交流会の機会を設け資質向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にはできる限り事業所を見に来ていただき感想を伺うようにしている。また、訪問しご本人やご家族と面談したり、関係者から情報を得るなどし関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にも、申し込みに至る経緯や現状などを伺うようにしているが、契約時にも時間をとり、ゆっくり話を聞かせていただき、ご家族の気持ちに寄り添うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面談やアセスメント時にどのような暮らしを望まれているのか、ご本人やご家族からうかがい把握するようにしている。その中でも「～したい」等の気持ち聞き逃さないようにするなどコミュニケーションを大事にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔から伝わる季節の行事や地域の習わし、郷土料理、歌などを教えていただいたり、逆に今のイベントとして、例えば「バレンタインデー」等の話をし、一緒にチョコケーキ作りをしたりと生活を楽しめる場面作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加や外出、病院受診、衣替えや日用品の購入などにご家族が関わって下さる場面がある。また、ご家族に日常の様子など安心感につながる場面なども伝え関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や周辺の散歩、ドライブ等を行い、友人・知人・親戚の方と話をする機会としたり、お寺や神社を訪れたりしている。また、行きつけの理美容室は継続利用の支援をしたりと、地域の方との交流を行っている。	階下の医院の受診者との触れ合いや、敬老会・社協主催の「演芸会」等に参加して馴染みの人と出会ったり、お寺参り・法事への列席等、家族からの情報や本人の希望に沿って、個々に馴染みの関係が途切れないよう、意識して働きかけており、利用者の満足に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の以前からの関係性や性格等を把握し、職員間で情報共有している。その上で、自ら輪に入りにくい方の席に配慮したり、職員も会話の中に入り調整役となるなど楽しく過ごしていただけるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前後は、関係機関へ情報提供しながら連携しご家族、入居者様の安心が得られるように支援している。また、退所後も気軽に遊びに来ていただけるよう声掛けなども行い交流ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人との会話や日々の様子から把握したり、ご家族や関係機関にも協力いただいている。その中でも気になること等は、職員間でミーティングで話し合ったり共有するようにしている。	デイサービス・ショートステイ・他施設から入所等の人が多く、これまでのケアマネジャーから、本人の状態を聞いて把握した上で、本人の希望や意向を確認し、寄り添うケアに努めている。困難な場合は、一対一で本人に向かい合う事で、思いを引き出す努力をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話やご家族の話しから把握できることもあるが、了承を得ながら関係機関にも協力いただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、その日の体調や状態を確認し、それに合わせて日々の支援を行っている。また、今できていない事でも、援助の方法次第ではできることもあり、ミーティングや記録を活用し共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時には、質問方法なども工夫しながら、なるべくご本人の言葉を引きだすようにしている。また、ご本人との日ごろの会話や様子、ご家族からの意見等も参考にしている。状況に変化がある場合は、モニタリングや再アセスメントし、見直し職員で意見交換や課題を話し合っている。介護計画はできるだけご本人にも説明している。	日頃のフロア会議で出た意見を参考に、職員の意見を聞きながら、モニタリングをしており、細かいケアについてはその都度検討し、現状に即したプランを作成している。又、アセスメントを行うなかで本人からの意見や要望を引き出す努力をしており、作成したプランを本人に説明後、可能な人には、サインをもらう等、本人本位の介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ソフトの活用で、個別の記録がしやすくデータ化や情報の共有もしやすい環境がある。それをケアの見直しや評価、介護計画の作成にも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や要望に応じて、通院や外出、帰省時の送迎や介助を行っている。状態変化によりベッド等が必要となった場合には、介護用品事業者と連携しレンタル契約している。ご家族の宿泊にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や外出に出かけたり、花見、敬老会、地区文化祭、運動会など季節ごとの催しも地域の方の協力があり楽しんでいただいている。また、行きつけの理美容室や歯科医院などの利用も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診や緊急時は階下の医院を利用し、変化がある場合はご家族へ報告を行っている。専門医の診察が必要となった場合は、紹介状を書いてもらい、ご家族の協力をいただきながら受診している。	全利用者が、階下の医院をかかりつけ医としている。月2回、定期受診があり、健康管理に努めている。専門科受診については、主治医の紹介状持参で家族が付き添っている。冬場は、全職員と来訪者にも、手洗い・うがい・マスク使用を促し、感染症防止に力をいれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	階下の医院と医療連携契約を結んでおり、日常の健康管理はもとより些細な体調変化にも直ぐに相談に応じてもらえ、医師の診察も受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は紙面や口頭で細かに情報提供するようにしている。また、早期に退院できるよう、ご本人への面会や、ご家族、病院関係者とも連絡を取り合い、状態の把握を行っている。地域の多職種連携会議にも参加し関係づくりにも努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点での事業所の職員体制や力量、他の入居者様への影響も考慮し、対応を検討している。また、母体施設のバックアップ体制等も把握するようにしている。	過去に看取りの経験はあるが、人生の最期に対する覚悟と責任は重く、職員の意向の確認等から、現時点では、看取りに関する体制が整っていないという認識である。家族や本人からの要望もあるが、母体の特養に移行してもらおう方向で話し合いをしているのが現状である。	今後の終末期ケアの方針については、職員や本人・家族の意見、母体施設との関連等も含め、十分な検討が期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導を受けながら応急手当や蘇生術の訓練を行っているが、新人職員については十分な研修ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導の下、階下の医院と合同で防災訓練を行っている。また、事業所内でも消火器設置場所の確認やマニュアルの確認等を年4回行うようにし、男性職員は地区消防団へ入り、地域との協力体制を築いている。	年2回、エレベーター点検の際、業者の指導により、エレベーター救出訓練が行われている。地震対応については運営推進会議でも話し合われ、委員から避難の仕方等について意見が出されている。その他、防災マニュアルの読み合わせ・消火器確認・自動通報設備点検等、日頃から防災に関する意識付がなされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応ができるよう、毎日、午前・午後に「接遇ミニ研修マニュアル」を用い研修し、自己を振り返る機会にもしている。	職員は、検温・血圧測定時も「させていただきます」終わったら「有難うございました。」という丁寧な言葉かけをしており、一人ひとりの人格を尊重している事が伺えた。入浴時の着脱についても、できるところは本人にやらせよう等、誇りやプライバシーにも配慮が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ソファーと一緒に座り、話しやすい雰囲気を作ったり、職員から意図的に話しかけたりし思いが聴けるようにしている。日常の場面でも、些細なこと、例えば食事のデザートを選択等も自分で選び決めていただけのようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等大まかな時間帯を決めている日課もあるが、それも入居者様の体調や希望等で前後することがある。いつも何かして欲しい方やゆっくりと過ごしたい方などその方の性格や習慣も把握するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の散歩でも、髪を整えたり身だしなみを整えて出かけている。誕生会や敬老会等行事では、数日前から着る服を準備したり、行きつけの理美容室でカットするなどしている。ご家族もご本人の好みに合う服を購入してこられたりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の嗜好については、入居時の聞き取りや食事の状況をみながら把握するようにしている。毎日の食事作りについては、「あまりしたくない」、「得意でない」との声があり、していただく機会は多くないが、食事の出来上がる匂いは「美味しそうな匂いがする」と楽しみにされている。また、漬物や梅干し、ラッキョウ漬け、季節の行事食作りなどは男性の方も職員と一緒に楽しんで参加されるので、今後も工夫しながら取り組んでいきたい。	食事は、利用者の嗜好を取り入れながら、職員手作りの料理を提供している。利用者が出来る範囲で、つわの皮むき・もやしの根きり・味見等、食に関わってもらおう努力が見られた。又、干し柿作り、金柑の甘煮等も利用者と共に作って食卓の話題にし、食事を楽しむ支援に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量などは記録システムの活用により随時把握でき、飲食がすまない時は、時間をずらしたり、食べたい物の聞き取りを行っている。また、個人に応じた食べやすい工夫も行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所へ誘導し、個々に応じた口腔ケアの支援を行っている。夜間は、義歯を預かり、洗浄殺菌を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状態、間隔、排泄用品を把握しているが、定期会議で見直しも行っている。また、排せつのサインなども見逃さないようにして、できるだけトイレでの排泄の支援をしている。	トイレ前に利用者全員分の紙おむつ収納ボックスがあり、すぐ使えるよう配慮されている。トイレ内には、清拭用ホットタオルと下半身洗浄用として、お湯が入ったペットボトルを常備する等の工夫が見られた。排泄パターンはパソコンで管理され、失禁を防ぐ努力をしている。冬場は失禁が多くなるので紙パンツを使用し、夏は布パンツに変える等、状況に応じてその人が快適に過ごせるようなケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の牛乳や食物繊維入りヨーグルトの提供を行い、便秘解消につながった方もおられる。改善が見られない方は主治医とも連携しながら便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は一人一人、安全にゆっくり入って頂けるよう心掛けている。そのため、その日に入浴できる人数や時間帯が限られてしまうこともあるが、可能な限り、希望があれば入浴できるように努めている。また、季節の楽しみとして、菖蒲湯や柚子湯などを行っている。	洗濯室・脱衣所・浴室それぞれが広く、ゆとりがある。浴室の中央に大きな機械浴が設置されており、職員の負担軽減になっている。入浴日は決まっておらず、週2～3回を入浴日としている。浴室には、ナースコールがあり、入浴時の安全も確保されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のその日の状態に応じて、居室で休んでいただいたり、リビングソファでくつろいでいただいたりしている。夜間は空調にも気を配り、寝具も清潔を心がけ、気持ちよく眠っていただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の医師の指示内容や薬剤の情報については個人ごとにファイルし、状態やそれに伴う薬剤の変更などを随時把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや調理の下ごしらえが日課となり、近所での買い物や散歩などは気分転換となっておられる。季節ごとに、高菜漬、かんぴょうや干し柿作り、梅干しやラッキョウを漬けなど、昔取った杵柄を發揮していただく場面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候ににんじて、近隣散歩、地域を回るドライブ、買い物、寺社参り等を行い地域の方との触れ合い支援をしている。また、ご家族の協力をいただき、自宅で過ごされることもある。	室内に閉じこもる事なく、ちょっとした時間でも外の空気に触れる支援を心掛けている。外出時は必ず携帯電話を持ち、不測の事態に備えている。又、家族の協力を得ての法事への列席や、本人の希望にんじての一時帰宅等を支援し、本人の満足に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にんじて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族と相談し、所持されている方、外出や必要な時に手渡す方など一人一人にんじた支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	趣味活動で製作したハガキを出すこともあり、ご家族からもハガキをいただくこともある。電話の使用はプライバシーに配慮し、自室に子機を持っていかれ話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を入居者様に生けていただいたり、皆で製作した季節の壁面飾りを掲示したりと、楽しみながら季節感を出すようにしている。リビングは必要ないときはテレビを消し、会話をしたり、静かにくつろげるようにしている。	エレベーター入口が玄関であり、開くと大きなブザーで訪問を知らせる仕組みとなっている。ドアが開くと広くて長い廊下があり、トイレ・リビング・台所等の居住空間の全てに掃除が行き届いており、清潔感がある。リビングは陽当たりが良く、壁には大型カレンダーと大きな時計が掛けられている。また、随所に生花が活けられ、落ち着いた居心地の良い共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置したり、談話コーナーを設けたりし、1人で過ごしたり、気の合う人と話しができる場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具など使い慣れたものを持ってきていたり、ご家族の写真を飾ったりとご家族の協力をいただきながら工夫している。また、テレビが好きな方もおられ、地域の話題が観られるケーブルテレビやBS、CSチャンネル等も居室で観ることができる。	各居室入り口には、図柄の違う暖簾が掛けられ、昼間はリビングと居室を自由に出入りできるように、各居室のドアは開放してある。居室は、段差があったり、バリアフリーだったり、ベッド横に畳が敷いてあったり、その人の状態によって快適で安全に過ごせるような工夫が見られた。衣装ケース・収納ボックス・テレビ等が持ち込まれ、それぞれに落ち着いた居室作りが出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態に合わせて、手すりの設置や家具など居室の模様替えを行っている。また、トイレや居室が分かりやすいように表示したり、暖簾をかけたりしている。		